

新水稻奨励品種「セトホマレ」について

萩森福督・東浩・川北脛司・神前芳信

1. 最近の水稻栽培は、機械化栽培の急速な普及と、一方、米の消費動向から機械化栽培に適し、良質な品種の要望が高まってきた。
2. 奨励品種選抜の主目標を前記の 2 点におき、過去 7 か年間全国各地の育成地から多数の新系統、品種を集め、場内および県下各地において試験を行なった。その結果セトホマレが最も有望であると判明したので昭和 45 年から県の奨励品種に採用し普及することとした。
3. セトホマレは本県の代表品種で、現在機械化栽培に使用されている東山 38 号と比較すると、成熟期と収量性はほとんど差がみられなかったが、セトホマレは強稈であり、耐倒性が明らかにまさっており、機械化適性が高いといえる。なおセトホマレの品質は東山 38 号、ナギホ、コトミノリなどの東山 38 号系品種群と同様優れており、従来の「さぬき米」の品質や銘柄を維持できると考えられる。